

授業科目名	慢性期成人看護援助論		担当教員	◎千葉 恵子、岡本 明美	科目ナンバリング NS259
必修	開講年次：2年後期	単位：2単位	授業形態：演習60時間		

【授業概要】

慢性疾患の概念を理解し、慢性期疾患を持つ人がその人らしく生き、療養生活を送るための援助方法について学ぶ。あらゆる健康障害のある成人の診断、治療過程に伴う変化や、反応、体験を機能障害の視点から理解し、それらに対する援助方法を習得する。各論においては、あらゆる健康障害のある成人の診断、治療過程に伴う変化や、反応、体験を機能障害の視点から理解し、看護援助方法を修得する。

【達成目標】

1. 慢性期・回復期にある成人の健康問題と生活の特性を理解する。
2. 慢性疾患を持つ人への療養生活支援についての知識と技術を習得する。

【履修条件】

「成人看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

[01]	慢性疾患・障害をもつ対象の特徴とその看護	(岡本)
[02]	機能障害のある患者の看護 循環機能障害患者の生活と看護 心不全	(千葉)
[03]	機能障害のある患者の看護 呼吸機能障害患者の生活と看護 慢性閉塞性肺疾患	(千葉)
[04]	機能障害のある患者の看護 消化・吸収機能障害患者の生活と看護 炎症性腸疾患	(岡本)
[05]	機能障害のある患者の看護 栄養・代謝機能障害患者の生活と看護 肝機能障害	(岡本)
[06]	機能障害のある患者の看護 内部環境調節機能障害患者の生活と看護 関節リウマチ	(千葉)
[07]	機能障害のある患者の看護 内部環境調整機能障害患者の生活と看護 糖尿病	(千葉)
[08]	機能障害のある患者の看護 内部環境調節機能障害患者の生活と看護 慢性腎臓病	(鈴木)
[09]	機能障害のある患者の看護 脳・神経機能障害患者の生活と看護 パーキンソン病	(千葉)
[10]	機能障害のある患者の看護 脳・神経機能障害患者の生活と看護 脳血管疾患①	(千葉)
[11]	機能障害のある患者の看護 脳・神経機能障害患者の生活と看護 脳血管疾患②	(千葉)
[12]	機能障害のある患者の看護 脳・神経機能障害患者の生活と看護 脳血管疾患③	(千葉)
[13]	機能障害のある患者の看護 運動機能障害患者の生活と看護 脊髄損傷	(千葉)
[14]	機能障害のある患者の看護 運動機能障害患者の生活と看護 ALS	(千葉)
[15]	機能障害のある患者の看護 感覚機能障害患者の生活と看護 メニエール病	(千葉)
[16]	機能障害のある患者の看護 内分泌機能障害患者の生活と看護 甲状腺機能亢進症	(岡本)
[17]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開①(心不全)	(千葉・岡本)
[18]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開②(心不全)	(千葉・岡本)
[19]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開③(脳血管疾患)	(千葉・岡本)
[20]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開④(脳血管疾患)	(千葉・岡本)
[21]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑤(糖尿病)	(千葉・岡本)
[22]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑥(糖尿病)	(千葉・岡本)
[23]	慢性疾患の治療と看護 (がん治療：手術療法・化学療法)	(岡本)
[24]	慢性疾患の治療と看護 (がん治療：放射線療法・緩和ケア)	(岡本)
[25]	機能障害のある患者の看護 呼吸機能障害患者の生活と看護 肺がん	(岡本)
[26]	機能障害のある患者の看護 耳鼻咽喉疾患患者の生活と看護 喉頭がん、咽頭がん	(岡本)
[27]	機能障害のある患者の看護 泌尿器・生殖機能障害患者の生活と看護 前立腺がん	(千葉)
[28]	機能障害のある患者の看護 造血機能障害患者の生活と看護 急性白血病	(千葉)
[29]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑦(肺がん)	(千葉・岡本)
[30]	グループ演習：事例で考える慢性期疾患の看護：看護過程の展開⑧(肺がん)	(千葉・岡本)

【教科書】

新体系 看護学全書 メヂカルフレンド社

成人看護学② 呼吸器 成人看護学③ 循環器 成人看護学④ 血液・造血器

成人看護学⑤ 消化器 成人看護学⑥ 脳・神経 成人看護学⑦腎・泌尿器

成人看護学⑧ 内分泌／栄養・代謝 成人看護学⑨ 感染症／アレルギー・免疫／膠原病

成人看護学⑩ 運動器

看護学専門分野教科書シリーズ 成人がん看護学 安藤詳子 編集 理工図書

【参考書】

指定なし

【評価方法・評価基準】

定期試験(60%)、小テスト(20%)、演習課題(20%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：人間病態学Ⅰ・Ⅱで学んだ疾患の成り立ちと治療法について復習しておく。(2～3時間)

事後学習：テキストやグループワークで作成したものを基に復習を行うこと。(2～3時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ：根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

演習課題や小テストなどは講義内で解説を行いフィードバックする。

【備考】

特になし